



みどりの東北

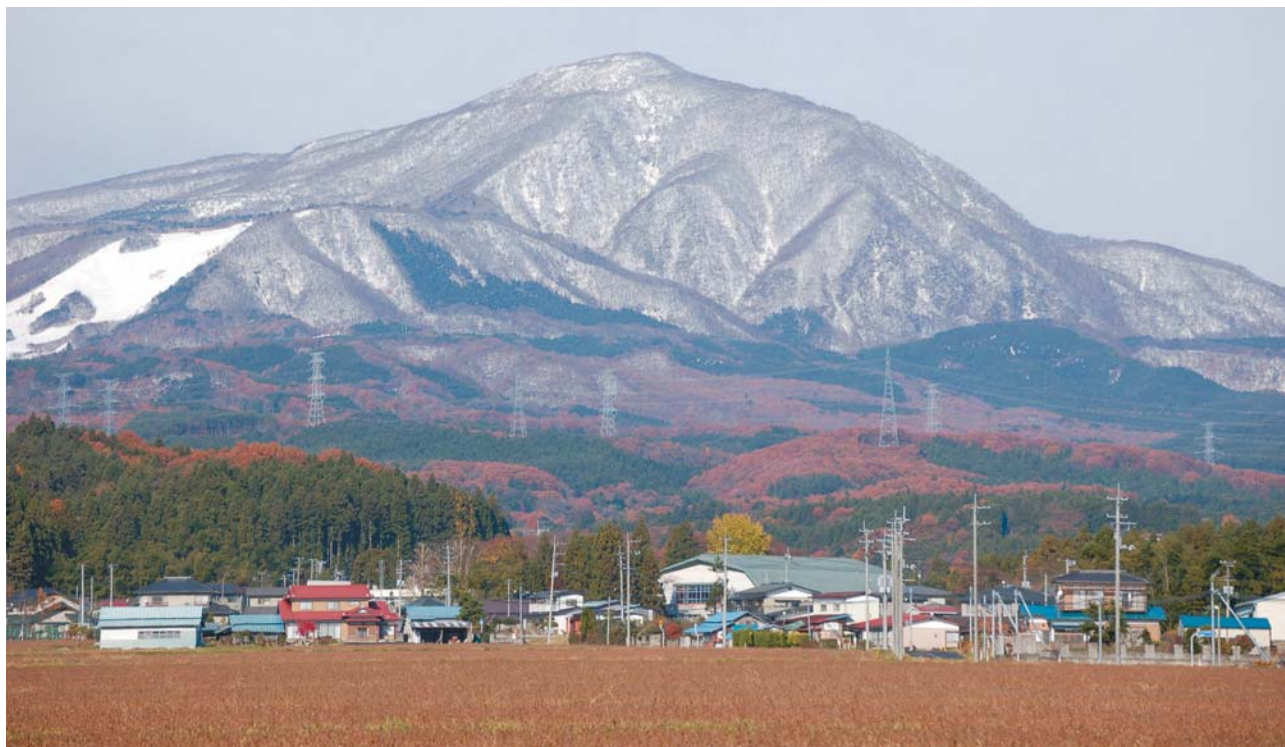
MIDORI no TOHOKU

平成20年12月

No.57

発行／東北森林管理局
秋田市中通五丁目9-16
TEL.018(836)2191

<http://www.tohoku.kokuyurin.go.jp/>



泉ヶ岳 (標高1,172m)

泉ヶ岳 (いずみがたけ)は、宮城県仙台市泉区の北西部に位置し、「県立自然公園舟形連峰」内に位置し日本300名山にもなっています。

山の周囲に七北田ダムや大倉ダムなど複数のダムがあり豊富な湧水があることから山の名前と、下流域である泉区の名前の由来ともなっています。

仙台市街から約1時間でありながら豊富な自然が残されてる泉ヶ岳は、登山やスキーなどのレジャーやアウトドア目的で訪れる方々が多く、仙台市はもとより宮城県民の憩いの場となっています。

写真は、仙台市泉区福岡側から撮影。



泉ヶ岳から仙台市街地方面を臨む

(写真提供：仙台森林管理署)

トピック

特集

「国有林第1回モニターアンケート結果」
企画調整室

美しい森林づくり

「次世代秋田スギの銘柄化に向けて」
協同組合秋田県銘木センター

我が署の隠れた名所

三陸中部森林管理署「高瀧」



環境に優しい大豆油インキを使用しています。



東北森林管理局では、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。



東北森林管理局では、国民の皆様
の意見の適確な把握とそれらの
意見を反映した管理経営の推進の
ための取組の一つとして国有林モ
ニター制度を設けています。十月
に実施した第一回アンケート結果
についてお知らせします。

〈森林に親しむきっかけは山登り
や森林浴〉

さらに多くの方々に国有林を利
用して頂くため、森林との関わり
を伺ったところ、九十八%の方が
森林に親しむもっていることが
わかりました。また、森林に親し
みを持つきっかけは、山登り、森
林浴等、山菜採り等の経験等とし
た。森林との関わりについては、
森林教室や森林ボランティア活
動、森林環境教育についても関心
が高いという結果となりました。

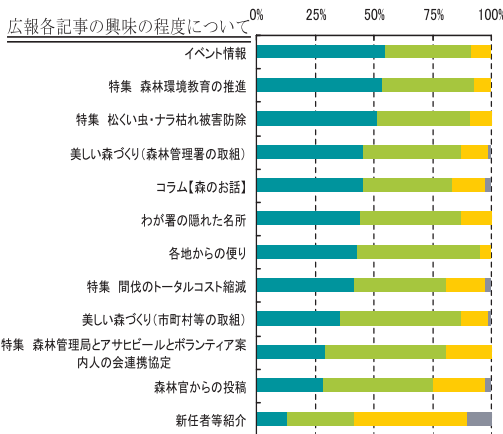
この結果を踏まえ「レクリエー
ションの森」のリニューアルや森
林教室の開催などを通じ、国民の

皆さんが森林に出かけるきつかけ
づくりにより積極的に取り組んで参
ります。

〈取組を分かりやすく示すことが
求められています〉

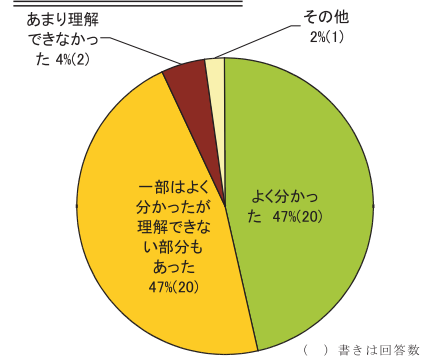
東北森林管理局の今年度の重点
取組事項について、公表資料をご
覧になって頂き、ご意見を伺いま
した。重点取組事項の中で興味を
もたれた項目は「間伐を積極的に
推進」、「貴重な森林生態系の保
全管理」、「国産材の復活を目指
した安定供給」、「間伐材の利用
拡大」、「森林環境教育の推進」
などでした。また「用語を簡単に
してほしい」、「施策を体系的に
示す」など数多くの改善提案を
いただきました。

こうしたご提案を踏まえ、今後
の重点取組事項の紹介に加え、プ
レスリリースなどに反映していく
こととしています。



〈情報発信の充実に取り組みます〉
昨年広報誌についてモニターの方
からご意見を伺い、今年度から
森林コラムや美しい森林づくりの
市町村版、イベント情報の掲載開
始等の改善を行ったところであ
り、その結果、今年度モニターの方
に高い評価を頂きました。

重点取組事項の資料について



「イベント情報の更なる充実」と
いったご意見や各記事のアンケ
ート結果を踏まえ、今後の情報発
信に取り組んで参ります。

〈ホームページのリニューアルに
取り組みます〉

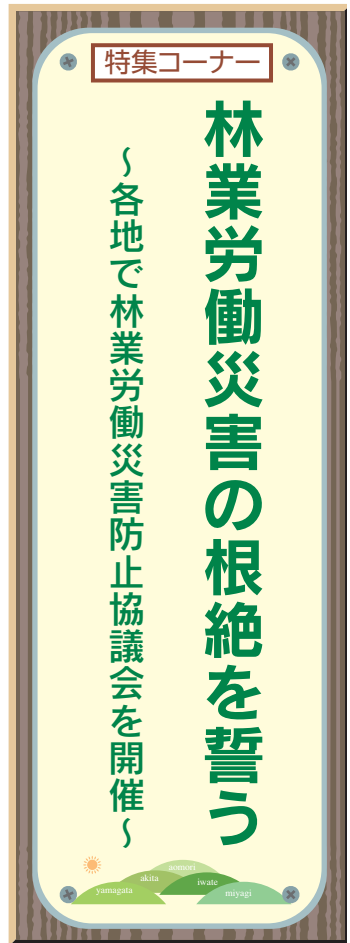
東北森林管理局ではホームページ
でも情報提供を行っています。
インターネットを利用できる方
の内六十%の方がホームページを
ご覧になったことがあるとのこと
でした。内容については目的の事
物が見つけにくいという指摘を
頂いた他、掲載してほしい情報
(ボランティア・森林教室・その他
イベント等)のご提案を頂きました。
今年度東北森林管理局では、ホ
ームページのリニューアルに取り
組むこととしており、頂いたご
意見を参考に、内容の充実を図
って参ります。

〈東北森林管理局への意見・要望〉

東北森林管理局へのご意見・ご
要望については、国有林モニタ
ーのあり方、森林管理局・森林管
理署と地元との関わりを強くすべ
き、内部規律の強化、森林・林業
をどう一般の方にアピールすべき
か等、多岐にわたるご意見を頂
きました。皆様のご意見を参考
にしながら、業務の改善を進め
て参ります。なお、今回のアン
ケート結果については、局のホ
ームページ (<http://www.tohoku.kokuyurin.go.jp>) に掲載して
おります。

林業労働災害の根絶を誓う

各地で林業労働災害防止協議会を開催



三八上北森林管理署

九月十九日（金）、生産請負事業実施箇所において、労働災害根絶に向けて林業労働災害防止協議会を開催しました。

この協議会は、当署と青森県森林整備事業協同組合が労働災害根絶を図ることを目的に三八・上北地域の林業事業者等と呼びかけて実施したもので、当日は、十和田労働基準監督署をはじめ林業・木材製造業労働災害防止協会上三分会、社団法人上北労働基準協会、地域内の森林組合・林業事業者などの林業関係者約四十二名が参加し、かかり木処理方法、安全確認の作業状況の視察と労働災害防止に向けて各林業事業者の実情等を意見交換しました。

製品生産事業地の視察では、請負事業者である東北町森林組合の垂井業務課長補佐から作業状況の説明を受けながら、かかり木処理の実演や間伐の搬出作業等を視察

しました。特にチェーンソー伐倒作業においては、マネキン人形を伐倒側に配置して伐倒木による衝撃の大きさを

実演し、一歩間違うと死に至ることを再確認させられるものでした。

現地視察後の意見交換では、佐



マネキン人形を使つての実演

山署長から「現地ではかかり木処理を主眼に見ていただきました。かかり木処理による災害が林業労働災害の六割を占めており、かかり木処理を適切に行えば災害が減少します。各事業者においてはこの点を踏まえ事業を進めていただきたい。」と要請。

林業・木材製造業労働災害防止協会上三分会の加賀分会長からは、リスクアセスメントの取組み

など各事業者の労働安全衛生活動の状況について報告、また、青森県森林整備事業協同組合の岸野常務理事からは、労働災害防止の基本的事項十項目の徹底について要請があり、最後に本間労働基準監督署長から「①リスクアセスメントの取組みの推奨、②かかり木の適切な処理、③高性能林業機械の安全対策を講じること。特に災害に対する共通意識を持つことが重要です。」と指導がありました。

会議の中で、かかり木処理等についての実態を聞いたところ各々の林業事業者からは、「かかり木が生じた場合、赤色テープで外周表示するなど明示に心掛けています。」「朝のミーティングで情報を共有し、早めにかかり木を処理している。」「などの報告があり、危険要因の排除に対する意識が十分あることを感じつつ、最後に、労働災害の根絶に向けて各々の事業体においては、安全意識の高揚を図り安全活動に取り組むことを誓い散会しました。

秋田森林管理署

十月十七日（金）、仙北地区において、管内の請負事業者、大曲労働基準監督署、当署の関係者約六十名参加のもと、林業労働災害根絶に向けた林業労働災害防止協議会を開催しました。

当日は、午前中に製品生産（間

伐）、造林（植付）、治山（谷止工）の請負事業箇所ごとの三グループに分かれ、作業の現地診断を行いました。午後からは、研修センターに場所を移し、各箇所での作業状況と改善点等の報告を行った後、各事業者の安全への取組み等が話し合われ、その中で、緊急連絡体制に衛星携帯を導入している事例等の紹介もあり、今後の一層の安全確保に向けた取組みの情報交換もなされました。

今後、各現場の作業条件は、天候とともに日に日に厳しくなることが予想される中で、労働基準監督署長からは、「林業は、大きな木・大きな機械を扱う作業であるため、作業を行う際には十分な注意が必要である。守るべき基本はきちんと守っていただきたい。」「との指導。また、当署長からは「昨年は、同期に管内で立て続けに労働災害が発生している。各事業も終盤へと向かうが、気を緩めずゼロ災害を徹底して欲しい。」との指導もな

され、あらためて林業労働災害根絶へ向け参加者全員で再確認し協議会を終了しました。



製品生産現場での現地診断

次世代秋田スギの銘柄化に向けて ～天スギ利用技術を継承して～

協同組合秋田県銘木センター

秋田スギの銘柄性とは
 昨今、あらゆる商品の価格が徹底した「安さ」指向を追求されています。安いところが消費者から歓迎され、安いことはいいことという風潮が横溢しています。
 しかし、そのプロセスで様々な偽装が行われ、結果として悪貨が良貨を駆逐する実態になっていないでしょうか。安いことはいいことであっても、常に正しいことと

は限らない現実を見ることを忘れてはならないでしょう。
 銘柄性とは何でしょうか。他の商品、産地と質的にも価格的にも差別化できる商品こそが銘柄製品と言えるでしょう。ここでいう差別化とは、ややもすると「安くする」ことに重きが置かれる傾向にあります。ありますが、私どもはどのような視点から、銘柄性というものを考えたいと思っています。

豊富な高樹齢秋田スギ

秋田には、郷土を代表する天然秋田スギがあり、その後継樹である人工林の秋田スギがあります。このうちの天然秋田スギは、国有林の計



秋田スギ高樹齢材の原木

面的な供給が平成二十四年度で終了することになっています。秋田産地の特色として、



天然秋田スギの原木

人工林の中でも特に樹齢の高い（八十年生以上）スギが豊富に産出されます。

東北森林管理局によると、天然秋田スギの供給量は年平均二千㎡程度に減りますが、高樹齢秋田スギは平成二十四年度までに漸増する見込みで年間九千～一万㎡の供給量があるとされています。この豊富な量は、まさに秋田産地が他の産地を差別化するために決定的な要因になり得ます。

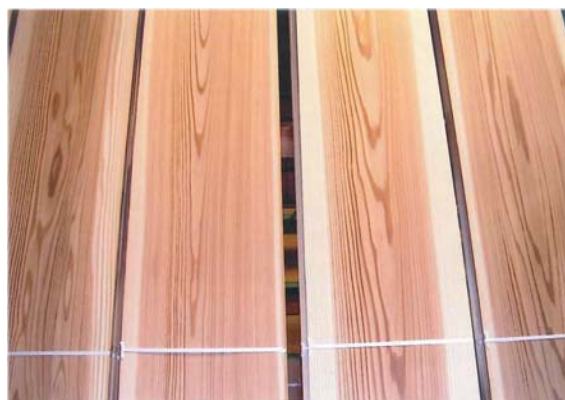
変化を目指して前進

ではどのようにして差別化を図っていくか。高樹齢の秋田スギは、樹齢が高い分だけ大径材が多く、その利用加工に産地としての特徴を生かすことが可能です。



秋田スギの通直な桁天井板

例えば、径級が大きい材からはいわゆる幅広の桁目材が採れます。この桁目は、天然秋田スギのそれと比較しても遜色のない色合いを備えており、木理も緻密なもので、柱材や造作材などの建築材のみならず、建具材や桶、曲げ物などの伝統工芸品、さらには高級



秋田スギ高樹齢材の天井板

食品用容器の素材として独特な市場を今もなお形作っています。
 こうした市場マーケットも、業界の先人が築いてきたものです。時代が変わり、木材業に関わる私たちも変わらなければなりません。変化を担う者は常に前進を目指さなければならないと思っています。



汗を流し、美しい「あつぴ高原遊々の森」を未来へ

岩手北部森林管理署

レンゲツツジなど芝草原特有の植物と景観が創られ、「自然と人と動物が創り出した森」として、多くの住民の憩いの場となってきました。



イベントに集まった皆さん

しかし、放牧が行われなくなると、レンゲツツジなど多くの植物が藪に覆われ、

安比高原の美しい景観が失われつつありました。このため、八幡平市では、「あつぴ高原遊々の森」を子供達や多くの市民が森林環境を学ぶ場とするため、毎年、約二十haの柴刈りを実施し、芝草原の復活に取り組んだ結果、芝草原の植物も徐々に復活しはじめ、今年の夏はヤナギランの群落

が多く、ハイカーの目を和ませました。イベント

当日は、午前中、約

○・五haのチシマザサ・かん木



冷たい北風の中行われた環境整備

の刈払いと焼却を二班に分かれて行いましたが、冷たい北風も忘れ、参加者全員が額に汗を流しながら、黙々と柴刈りを行い、綺麗になった箇所を見て、みんな達成感を味わいました。



午後からの意見交換会

午後、八幡平市と森林管理署の担当者から、一年間の取組状況の報告を行った後、「あつぴ高原の将来と活用について」をテーマに意見交換を行いました。

意見交換では、かつての安比高原はレンゲツツジの咲く美しい草原で私の自慢の場所だった。ところが、数年前久しぶりに訪れたら、

藪に覆われ見る影もなくなっており、悲しい気持ちになった。今後、かつての美しい森林に取り戻す活動に参加したいとの意見が出され、参加者全員で、「この景観を将来にわたって残す」ことが確認されました。

また、この活動を長く続けていくためには、この活動を多くの人に知ってもらい、参加してもらうことが重要なので、今回のイベン

トに多くの人が参加してもらったための工夫や活動状況のPRを積極的に行っていくとともに、活動に必要な協力金についても、今後、みんなで話し合っていく必要があるとの意見が出されました。これらの意見が踏まえ、「安比高原の素晴らしい景観を将来にわたって残す」ためにどうしたら良いか、今後、関係者が集まって議論を重ねていくこととしていきます。



地元ボランティア等による刈払で群生したヤナギラン

東北森林管理局

1階ロビーのご案内(12月)

・ミニギャラリー
手作りハウス アンアンの
クリスマス作品展
秋田市 渡部 孝子

・PRコーナー
森林環境保全
ふれあいセンター活動展
指導普及課

【森のお話】
…コラム…

東北地方ではなかなか見ることができません
秋に花が咲く木は、
実と花が一緒に観察できます

森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場

半田 孝俊

秋から冬にかけて花が咲く木の代表はサザンカですが、東北地方の南部のような暖かいところであればお目にかかれませんか。お茶の葉を採るチャノキも同じ時期に咲きます。

東北地方で秋に咲く花が観察できるのは、学校、公園などに植栽されている針葉樹のヒマラヤシダです(写真―1)。



写真―1 球果の着いたヒマラヤシダ

成長が早く、大木になります。花が咲いていることに気がつく人は少ないようです。盛岡では十月末～十一月始めに咲きます。雌花は下の枝にも着きますので注意してみるとわかります。夏になると蕾が大きくなります。うす緑色で、

枝の上に着くのでわかりにくいのですが(写真―2)、花粉を出している時は黄色くなります(写真―3)。その後たくさん枯れた花が地上に落ちますので、その時初めて気がつきます。雌花は木の上部に着くので、花が咲いていることがわかりません(写真―4)。花粉を受け取った雌花はそのままの大きさで冬を越して、翌年の夏からどんどん大きくなって、秋に大きな実(球果)になります(写真―5)。球果には大きな羽のついた種子がたくさん入っています。(写真―6)。



写真―2 ヒマラヤシダの雄花(つぼみ)、葉に溶け込んでしまうのでわかりにくい



写真―6 ヒマラヤシダの種子、長さは羽を含めて4cm位



写真―5 ヒマラヤシダの球果、長さは10cm位、枝の上に着くので下からは見えにくい



写真―4 ヒマラヤシダの雌花、長さは1cm位



写真―3 花粉放出中のヒマラヤシダの雄花、長さは3cm位

山形県西部、宮城県南部より南で見ることができると言われるシロダモは常緑樹ですが、耐寒性があり、里山のコナラ林などに生育しています。葉は大きく、裏が白く、3本の葉脈(筋)が目立ちます。雌と雄の木があります。花が咲いた翌年の秋に実が赤く熟しますので、花と実を同時に見ることができるとは雄の木です(写真―7、8)。雌花は雌花に比べて華やかな感じがします(写真―9)。



写真―7 花と実をつけた雌のシロダモ、葉の裏は白い



写真―8 シロダモの雌花



写真―9 シロダモの雄花



瑞宝単光章を受賞した柴田さん

平成二十年十一月十三日、秋晴れの爽やかな日に、秋の勲章伝達式が農林水産省において行われ、当署OBの柴田円治氏が「瑞宝単光章」を授章されました。

柴田氏は、むつ市大畑葉色山国山林において、昭和五年に松川恭佐氏がヒバ択伐林施業技術の実

秋の叙勲で 柴田円治氏が授章

下北森林管理署



証・確立のために設定した大畑ヒバ施業実験林の維持管理と、国有林関係者はもとより、県内外からの学識経験者・林業技術者等視察者に対し、昭和二十八年採用以来、現職当時はもとより平成五年退職以後においてもその試験研究及び技術指導のために一生を捧げ邁進された実績が評価され、授章されました。

授章にあたり、ご本人は、「松川先生の志をついで、実験林の世話をしてきた結果、このような栄に授かり、光栄です。また、皇居において天皇陛下にも拝謁でき夢のようなです。今後も、体力が続く限り、実験林に貢献して参りたい。」と喜びを語っておられました。

山形森林管理署

歴史ある松林の 再生事業に着手

再生事業に着手

十一月十一日、千歳山地区生活環境保全林整備事業の着手を記念し、「千歳山松林再生プロジェクト」として、地元の滝山小学校四年生百四十一名と市民ボランティアの皆さん等の参加を得て、植樹祭を開催しました。

山形市民のシンボルとして親しまれている千歳山は、山形市の東部に位置する標高四百七十一mの

山です。周りを住宅地に囲まれ、周辺住民の散歩コースになっていくだけでなく、阿古耶姫と松の精霊の悲恋伝説をもとに、「阿古耶の松」として平家物語などの古典に記載されるなど、古くから広く親しまれ、大切にされてきました。しかし、昭和五十七年にマツクイムシ被害が確認されて以降、伐倒駆除等の処理が続いているものの、被害は増加しています。それに伴って、山腹崩壊や落石の危険性が高まっていたことから、地域の方々から整備について強い要望が出されていきました。そこで、松林の再生とともに治山施設の設置及び、登山道その他施設の改修等を含めた総合的な森林整備を行うこととしました。

植樹祭当日は天気もよく、来賓の市川山形市長様をはじめとする、約二百名の参加者と共に約千本の松を植えました。参加した小学生からは、「松が枯れていることを知らなかった」、「病気に負けず、元気に大きくなつてほしい」、「これからも様子を見に来る。」といった感想が聞かれました。

植樹の後には小学生を対象に森林教室を行い、近くの散策路を歩いて初冬の植物を観察しま



山形市長による記念標柱の設置

した。時間が短かったために「もつとやりたい！」という声も聞かれました。が、今後の学校生活、日常生活の中で千歳山に親しむきっかけになったと思います。



松林の再生を願い植樹しました

仙台森林管理署

折立中学校職場体験を実施

仙台森林管理署では市内青葉区折立にある折立中学校の要望を受け、今年初めて職場体験を実施しました。地元地域にある企業、事業所等での実際の仕事を体験したいということで、当署では仙台森林事務所において、十月二十八日から二十九日の二日間にわたり二名の生徒を受け入れました。

この時期は業務最盛期で内容も多岐にわたりますが、当署管内の全ての海岸林を含む広大な面積を管轄する仙台森林事務所では、松くい虫の被害木調査が業務の中心になってきたこともあり、生徒たちにもこの業務を体験してもらい

ました。生徒たちは、この職場体験を通して、仕事の大変さや努力することの大切さを学び、今後のステップにしたいと、意欲をもって当署の現場業務に取り組んでくれました。



森林官の説明を聞く生徒

一日目は、実際に被害木の調査を行い、二日目は調査結果をまとめて報告書を作成する作業を体験してもらいました。一日目、生徒たちは調査を始める前に、森林官から松くい虫の被害が発生する仕組みと現状についての説明を受け、調査では、ブルーメライスや測竿、輪尺など初めて扱う道具に戸惑いながらも、普段の学校生活では教えてもらえないことや体験できないことに、「学校の授業より面白い。」と、楽しみながら作業していました。二日目、生徒たちは一日中座りっぱなしでパソコンとにらめっこの業務に若干退屈そうでしたが、大変真面目に取り組んでいました。

有意義な二日間となりました。今後とも国有林のPR活動を積極的にを行い、将来の森林づくりを担う子供たちの育成につなげるような活動を継続していきたいと考えています。

由利森林管理署

自然休養林の紅葉を散策

【紅葉の自然休養林森林浴ツアー】

十月八日、鳥海自然休養林内において、森林ふれあい推進事業「紅葉の森林浴ツアー」を実施、毎年春と秋に行われているもので、地元由利本荘市をはじめ秋田市方面から二十二名の参加申し込みがありました。

当日は、前日の雨が嘘のように絶好のツアー日和となり、市原署長から由利署管内の紹介と、国有林のPRを含めた歓迎の挨拶がありました。

今回の散策コースは、日本の滝百選でもある法体の滝や玉田溪谷沿いの甌穴など、散策道による自然探勝が行われている場所でもあります。特に、法体の滝上流部の玉田溪谷周辺では、急峻な溪谷と水蝕作用により河底周辺が円形状の穴になっており、大小百個以上の甌穴群と溪谷沿いに二・五kmの

歩道が整備され自然性の高い変化に富んだ美しい区域でもあり、参加者からは「絶景です」と自然が作り出した景観に感動を呼んでいました。



法体の滝にて記念写真

昼食後、鳥海山の竜ヶ原湿原に移動、途中四合目付近から赤や黄色などのコントラストが鮮やかな色を醸しだし、紅葉が真っ盛り景色に「すごい」「きれい」と参加者一同大きな拍手が起り、非常に満足した様子でした。参加者からは「来年の森林浴ツアー」を心待ちにしているなど大変満足し、帰路は心地よい汗の感触を確かめながら、全員が無事故で一日を終了しました。

なお、今回の参加者に秋田県立大学の学生である品川朋仁さんが、卒業論文のテーマ「森林の活動に関わるアンケート」調査のため一般参加者として参加されており、アンケート結果については集約でき次第差し上げたいとのことでした。

参加者から寄せられた感想

写真拝受いたしました、ありがとうございます。本当に楽しい一日でした。二次林や玉田溪谷は初めてでしたし、法体の滝や被川も新しい感動がありました。そしてあの紅葉の美しさは筆舌に尽くせません。素晴らしい1日ありがとうございました。春にもまた楽しみにしています。御礼まで。

新任者略歴紹介 (12月1日付)

岩手南部森林管理署長

いわした ひでみ 岩下 秀美 (熊本県)



- 49・4 大阪局日原署採用
- 8・4 林野庁森林組合課林業構造改善企画官
- 17・10 林野庁経営課課長補佐
- 20・4 関東局東京事務所副所長

“初めての土地でがんばっています。”

山形森林管理署 幸生森林事務所

小長谷 遼平

外は雪がもくもくと降っています。今年は例年よりも事務所に入ってくるカメムシの量が多かったようです。現場の人曰く、カメムシが多い年は雪も多いのだそうです。雪景色は好きですが、雪かきが嫌いな私としては喜んで良いのか悪いのか複雑な気分です。今年の雪の量はいったいどうなるのでしょうか？

さて、幸生森林事務所は山形県のほぼ中央にある寒河江市から車で約15分、国道458号線沿いにあります。(国道といっても半分は砂利道ですし、11月～6月の間は雪のために封鎖されていますが)そこで葉山、月山と2つの山を含む、合計11683haの国有林を管轄しています。



管轄区域内にある月山

赴任しての最初の仕事は幸生小学校の入学式に来賓として出席することでした。まさか24歳にして、小学校の入学式に来賓として出席することになるとは思いませんでしたが、おかげで地域の方々と知り合う、また新しい森林官だと認識してもらえる良い機会になりました。森林官になると、すべてが初めてやることばかりで分からないことばかりの毎日です。それこそ、どこにどういう書類があるかも分かりません。しかし事務所を訪問してくる人にとって、そんなことは関係ありません。まったく言葉が分からず、現場職員に通訳を頼む始末。さらに現場職員の言葉も半分くらいしか理解できず、困った時期もありました。それからもう8ヶ月、「今度の森林官は



地元小学生との登山

こなしています。

今夏、幸生小学校で葉山登山を行いました。自分で葉っぱをとってじっくり観察する子供、触ってみたり匂いをかいだりする子供、少し口に入れてみる子供。子供達は体全体で自然を感じていま



ブナの巨木

す。子供達の姿を見て、自然の面白さにあらためて気づかせてもらうことができました。

年が明けると『冬の学校』があります。かんじきを履き、山を歩きながら冬芽や動物の足跡を探しにいきます。子供の視点にたち、一緒にひとつでも多くのことを学びたいと思います。勉強のためにも、かんじきさ履いで、現場の人と一緒に山さ行ってくつかな。



自然のおもしろさを気づかせてくれました

我が署の 隠れた名所

三陸中部森林管理署

「高^{たか}瀧^{たき}」

(見所の概要)

大船渡市からリアス式海岸で有名な陸中海岸を北上すること車で1時間20分余り、管内最北となる大槌町に到着、そこから北上高地に向かって行くと隠れた名所として紹介する「高瀧」があります。

林道から広葉樹の中を険しい沢伝いに登って行くと、あちらこちらには巨岩が横たわっていて自然の雄大さを実感する一瞬でもあります。

足をすくませながら歩いていくと、そこにはカツラ、トチの太木に囲まれた鬱蒼とした中に大きな滝が見えてきて太古の時代からなのか、滝から流れ出る水に浸食された大きな穴が滝の表面に見えます。滝の落差は35m、幅7mで、水量の多いときにはその浸食された段差に跳ね返る水のしぶきで恐怖さえ感じられるような思いがします。

国土地理院の地図にも載っていない「幻の滝」として大槌商工会のホームページで紹介されており、その滝に見とれていると、人の顔に見える岩があるではありませんか！まるで滝を見守っているようです、脇の看板には人面岩と記されています。

自然が作った造形美には驚くばかりであり、隠れた名所として知る人ぞ知るにしておきたい場所でもあります。



瀧のそばにある人面岩



交通アクセス

JR大槌駅より車で県道大槌川井線、小又口バス停から折合併用林道を経由して車で40分、林道から沢伝いに徒歩30分。

お問い合わせ先

〒022-0003 岩手県大船渡市盛町字津野沢7-5
電話番号：050-3160-5910 FAX：0192-26-4279